

降雪災害にボランティアの支援

農業小学校卒業生家族も参加

10月26日から27日にかけて冬型の気圧配置が強まり、札幌など道内各地で初雪が観測されました。とりわけ札幌南部から後志地方北部にかけて降った重い湿雪のため、砥山の果樹園は果樹の倒壊や枝折れなど非常に大きな被害を受けました。収穫前のりんごも多数あり、この窮状を支援すべく翌28日から八剣山発見隊をはじめとする、延べ百数十人のボランティアが支援活動を行いました。この大勢のボランティアに、農業小学校卒業生の家族も支援に加わってくれたことは特筆すべき事でした。



被害を受けた砥山ふれあい果樹

札幌管区気象台によると、札幌の初雪は平年より1日、昨年より6日早く、26日午後9時の気温は1.1℃と11月中旬並みの冷え込みとなりました。夜半から早朝にかけて降雪が強まり隣接する中山峠では約60センチ、小金湯で3センチもの積雪により一面銀世界となりました。

農業小学校の主要会場である、砥山ふれあい果樹園では、2か所のブドウ棚(計25アール)が上に積もった雪の重さで倒壊、約400本のりんごの木は数本を除いて、大枝が裂けたり無数の枝折れの被害が発生し、収穫前のりんごが

落果して雪の下になるなどの被害が発生しました。またブルーベリーや梨の木も大きな損傷を負い、来年の収穫が懸念される状況です。園主の父の瀬戸矩雄さん(84歳)は、自分が40年前に植え、手塩にかけて育てたりんごの木が倒壊した現場で、「こんな経験は初めてだねえ。」と悲しそうな表情で幹をなでながらつぶやくのが印象的でした。被害を受けたりんごの収穫作業は、ボランティアの支援もあり30日に終了しました。

また、同果樹園ブドウの木は殆どが根元から倒れているため、どれだけの木が生き残ってくれるか心配され、本格的な降雪前にブドウの木を整理しなければ来年の収穫が期待できないため、一日も早い復旧作業が望まれました。



ブドウ棚の撤去作業

まず倒壊したブドウの木を立て直すために、約5m間隔に立てられた鋼管の支柱間に張り巡らされたワイヤーと番線をすべて撤去し、複雑に絡み合ったブドウの蔓を開放する必要があります。木を傷めないように丁寧に撤去するうえで多くの人手が求められる作業となりました。固定用の針金を一本ずつ切断したり絡まった蔓を切り離すためには、中腰の姿勢での作業となりましたが参加者は忍耐強く働き

ました。そのお陰でブドウ棚の撤去作業は11月12日にほぼ終了しました。

一方、隣接する西本果樹園でも貴重なデリシャスの木の太い幹が折れる被害をはじめとして、約240本のりんごは数本以外に無数の枝折れ被害が発生しました。



被害を受けた西本果樹園

今年大きな実をつけた約50本の栗と7本のくるみの木は全滅状態、プルーンも数本を除いて大きな被害を受けてい

ます。園主の西本さんは、「大きな良い実をつける木ほど被害が大きいようだ。」と語っていました。同果樹園のりんごの収穫作業は30日に終了しました

被害農園からはボランティアの働きに対して深い感謝の意が表されました。しかし、来年の収穫に向けて復旧するためには枝折れしたりんごの木の新芽やブドウ棚の再建など、まだまだ困難で膨大な作業が残っています。

来年も無事農業小学校が開校されることを願ってやみません。



雪を被った収穫前のりんご



このような被害がいたるところに



40年前に植えられた大切な木も被害に



雪の下からの収穫



プルーンの木にも大きな被害



倒壊したブドウ棚



作業中のボランティア



支援が行われた果樹園



ブドウ棚から番線の抜き取り

発行: 砥山農業クラブ事務局(代表 瀬戸修一)
〒061-2275 札幌市南区砥山 84 番地 ☎・Fax 011-596-2694
E-mail toyamafureai@gol.com
<http://www.hakkenzan.com/nosyo/>